

# 逆ポーランド電卓のつくりかた

— 脱ビギナ系 データ構造とアルゴリズム講座「StackとRPN」

わんくま同盟

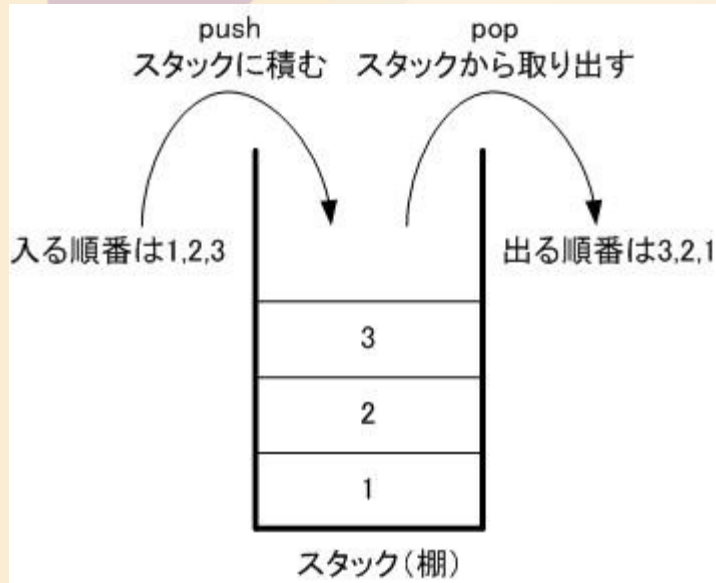
*επιστημη* [episteme@cpp11.jp](mailto:episteme@cpp11.jp)

Microsoft MVP for Visual C++ (2004-)



わんくま同盟 東京勉強会 #32

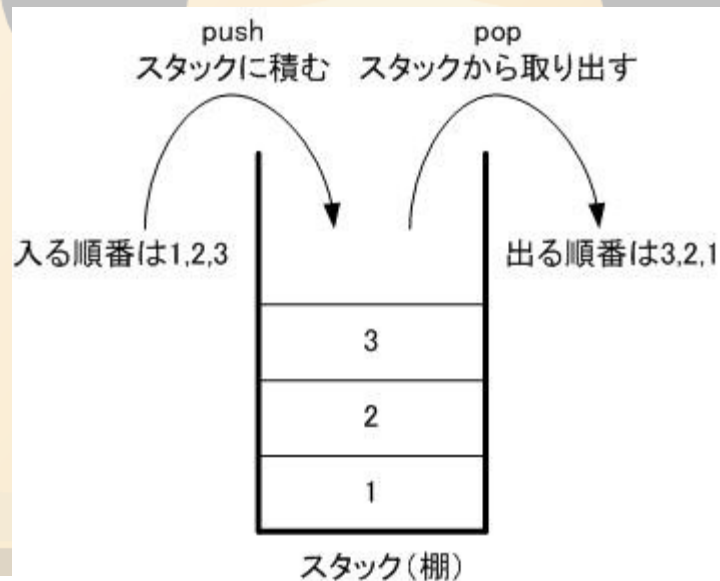
# スタック(Stack)てなんぞ? (1)



Pez(ペッツ) 知ってる?  
遠足のおやつに持ってったアレ。

## スタック(Stack)てなんぞ? (2)

- またの名を First-In/Last-Out(FILO)バッファ
  - First-In : 最初に入れたのが
  - Last-Out : 最後に出てくる
- Pushで入れて Popで取り出す



逆ポーランド記法：計算式の表現のひとつ

- RPN(Reverse Polish Notation)

- Jan Łukasiewicz (ヤン・ウカシエヴィチ)

- $1 + 2$  を  $(+ 1 2)$  って書いてみた (LISPみたーい♪)
- 別名「前置記法: prefix notation」
- このひと論理学者でポーランド人
- なのでポーランド記法(Polish Notation)

- ポーランド記法をひっくり返したのがRPN

- $1 + 2 \rightarrow (+ 1 2) \rightarrow 1 2 +$  って書いてみようよ
- 別名「後置記法: postfix notation」

※ふつーの数式は「中置記法: infix notation」

## RPN をStackで計算(評価)する

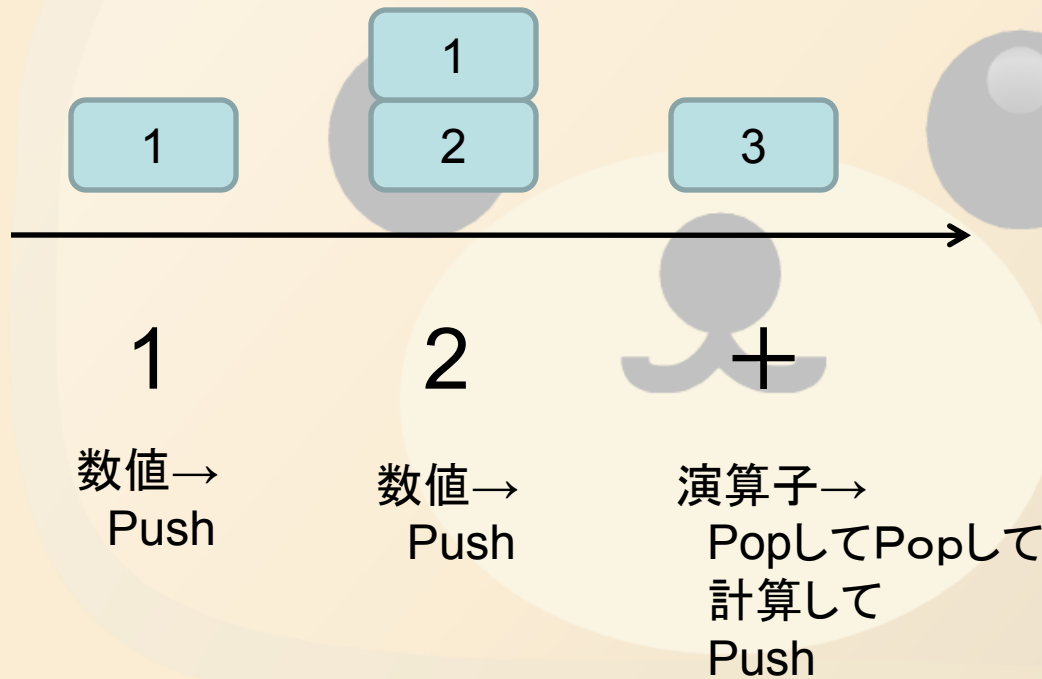
- RPN式を左から順に読み...
  - 数値なら
    - StackにPush
  - 演算子なら
    - StackからPopして
    - StackからPopして ← 単項演算なら省略
    - 演算子に応じた計算をして
    - 結果をStackにPush
- この操作を繰り返し、  
最後にStackに残ったのが答

# RPN をStackで計算してみよう (1)

計算式 : 1 2 +

1 + 2 =

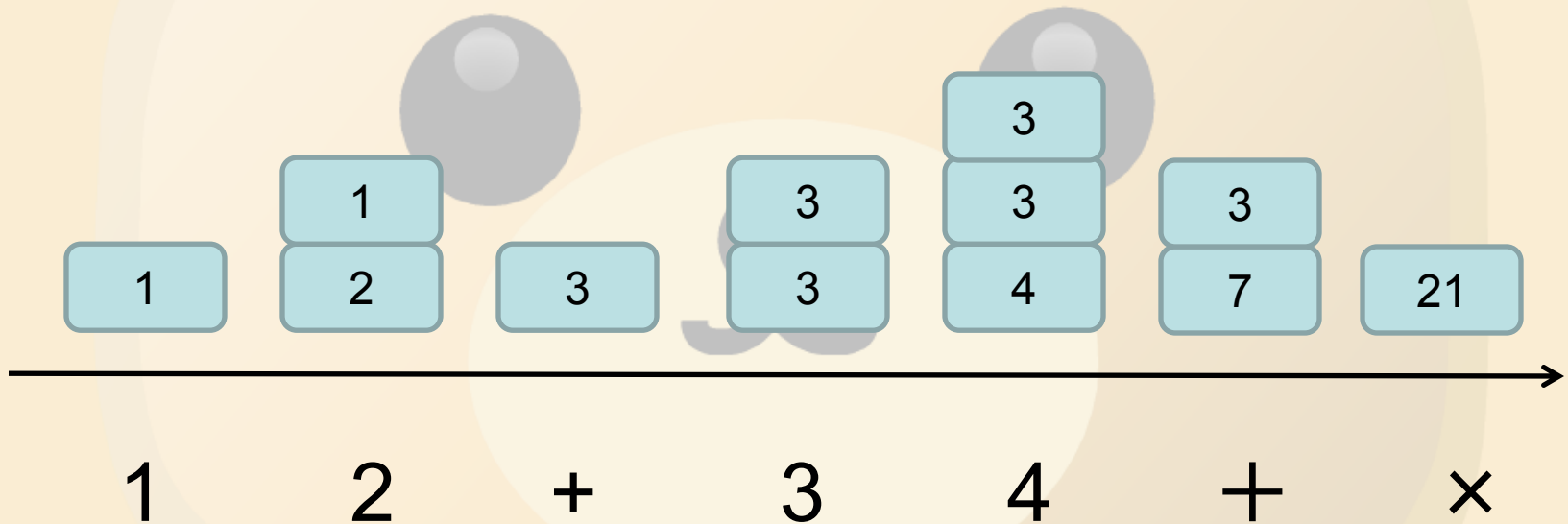
※ 最下部がStackの先頭



## RPN をStackで計算してみよう (2)

計算式 : 1 2 + 3 4 + ×  $(1 + 2) \times (3 + 4) =$

※ 最下部がStackの先頭



Push/Pop/計算するだけの簡単なお仕事です。

## RPNの特徴

- すっごく単純
  - Stack一本で計算できる → 計算機向き
- 演算子に優先順位がない
  - 演算子が出てきたらすぐさま計算
  - カッコがいらぬ
  - = もない
- 日本語と同じ順序
  - $(1 + 2) \times (3 + 4) =$
  - 1 に 2 を たして、3 に 4 を たして、かける
  - 1 2 + 3 4 + ×



## Stack二本で計算機を作る

- 命令Stackに式を積む
- ひとつずつPopしながら
  - 数値なら計算Stackに積む
  - 演算子なら計算StackからPopしてPopして、計算してPush



命令Stack



計算Stack

命令Stackが空になったとき、  
計算Stackに残るのが答

RPN計算手順

Stackは.NET Frameworkに実装済

System.Collections.Stack

Sub **Push**(ByVal Item As Object)

Function **Pop**() As Object

System.Collections.Generic.Stack(Of T)

Sub **Push**(ByVal Item As T)

Function **Pop**() As T

今回、こいつらは使いません



Stackは可変長配列  
System.Collections.**IList**,  
System.Collections.Generic.**IList(Of T)**  
で代替可

- Push

- 末尾に追加

```
リスト.Add(item)
```

- Pop

- 末尾から取り出し

```
Dim item As T = リスト(リスト.Count-1)
```

```
リスト.RemoveAt(リスト.Count-1)
```

```
Return item
```

末尾要素のインデクス



## DEMO-1 ListBox.ItemsをStackとして利用する

- Public ReadOnly Property **Items** As  
ListBox.**ObjectCollection**
- Public Class **ObjectCollection**  
Implements **IList**, ICollection, IEnumerable

**IList**ならStackがわりに使えるじゃん!

# 拡張メソッドで IList に Push/Pop を追加

```
Imports System.Runtime.CompilerServices
```

```
Imports System.Collections.Generic
```

```
Namespace Wankuma.Episteme
```

```
Module ListExtensions
```

```
<Extension(> Public Sub PushBack(ByVal Self As IList, ByVal item As Object)  
    Self.Add(item)  
End Sub
```

```
<Extension(> Public Function PopBack(ByVal Self As IList) As Object  
    Dim result As T = Self(Self.Count - 1)  
    Self.RemoveAt(Self.Count - 1)  
    Return result  
End Function
```

```
...
```

```
End Module
```

```
End Namespace
```



## Smart UI (利口なUI) アンチパターン

- 層状アーキテクチャの対極をなすアンチパターン。
- ビジネスロジックやデータアクセスのコードが、UIのコードと一緒にになってしまっている、いわばスパゲッティな状態。
- 利口なUIと呼ぶのは、ビジネスロジックを含むすべての処理がUIの中で行なわれるから。
- 最もやっつけで手軽なやり方がこれなので、設計を何も考えないとこの状態に陥ってしまう。

## System.Collections.ObjectModel

- **Collection(Of T)**  
Implements  **IList(Of T)**, ICollection(Of T),  
IEnumerable(Of T),  **IList**, ICollection, IEnumerable
- **KeyedCollection(Of TKey, TItem)**  
Inherits  **Collection(Of TItem)**

**IList**ならStackがわりに使えんぢゃん!

要素の追加/削除/変更を再定義可  
→ Model/Viewの分離

Public Class ListCollection(Of T)

Inherits Collection(Of T)

Public Target As ListBox

Protected Overrides Sub InsertItem(ByVal index As Integer, \_  
ByVal newItem As T)

MyBase.InsertItem(index, newItem) ‘もともとの InsertItem を呼ぶ

Target.Items.Insert(index, newItem) ‘ListBox にも Insert する

End Sub

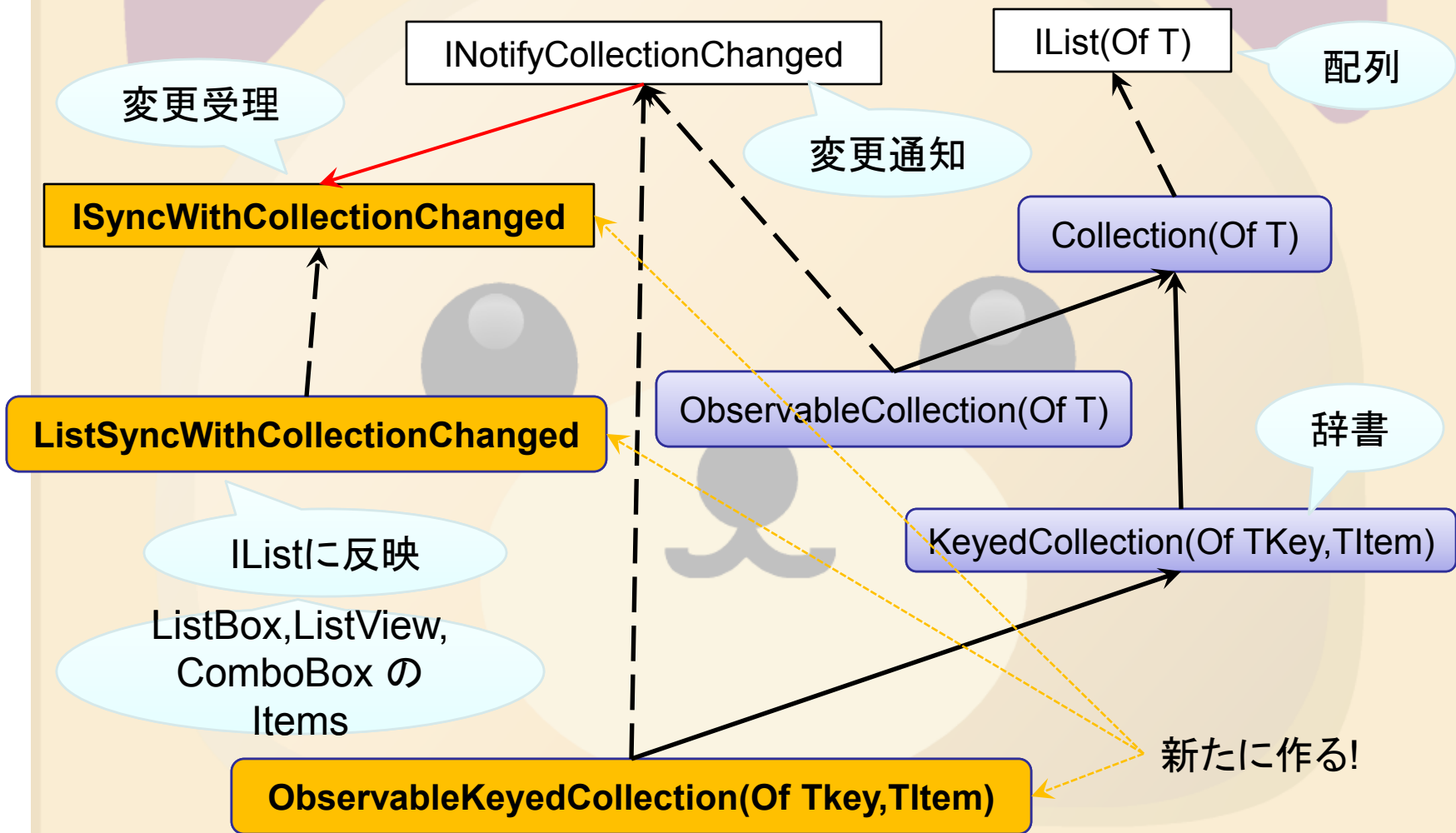
SetItem, RemoveItem, ClearItems についても同様。

End Class





# System.Collections.ObjectModel をタネにして...



アナタはいまどこ？

- Wizardが吐くものを使う
- ライブラリから探して使う
- ちょいといじって使う  
(派生/拡張メソッド/ヘルパ)
- なければ作る
  - アプリベったり(作り捨て/使い捨て)なら簡単
  - ツブシの効くものはそれなりのスキルが必要